

# 継続は力なり 明日に向かって

佐古コミュニティ協議会 事務局 福井康生

## コミュニティ だより

市 徳島市コミュニティ協議会  
徳島市幸町2丁目5番地  
TEL(088)621-5510  
FAX(088)621-5511



平成八年四月、佐古コミュニティ協議会が設立され、コミュニティセンター建設の機運が盛り上がり、平成十二年九月二十一日建設着工、翌年十三年九月二十八日センター竣工し、十一月二十二日落成式を挙行了。昨年、満十周年を迎え、十一月二十三日

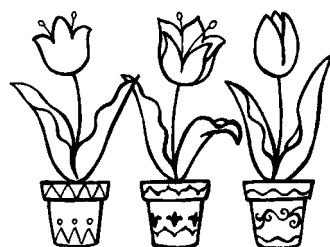
に十周年記念式典を挙行了。  
アトラクションでは、佐古小学校和太鼓クラブの勇壮な演技で幕を開け、舞踊、合唱、健康体操、カラオケなどセンターを利用しての住民の発表があり、最後に阿波踊り愛日連でしめくり本当に有意義な式典であった。また記念刊行物として「佐古歴史文化たんざくマップ」を作成し、佐古住民に配布し大変よろこばれた。また町外のウォーキングマニアからも問い合わせがあり作成スタッフ一同感激した次第である。

ここで、協議会の活動を振り返ると、一番に平成十六年に阿波踊り佐古愛日連の結成、佐古町は昔から商業、産業の中心地として栄え、地域踊りの盛んな町であったが、時勢の変遷でその姿を消し、寂しく思っていた。そうした中で佐古町の活性化、コミュニティの基本である住民参加の地域踊りの復活に繋がった。復活を記念して、阿波踊りのお囃子にある「一



丁目の橋まで行かんかこいこい」の記念石碑を佐古橋の公園内に建立した。踊りは昨年で八回目を迎え、老若男女幼児百四十人の踊り子で、東新町、藍場浜演舞場、両国橋演舞場と踊り込んで行った。

その他の特筆すべき活動は、佐古シルバークラブ連合会の呼びかけで実施している健康体操がある。毎週水、金曜日に愛日ホールで開催している。シルバークラブの男女五十人ぐらい集まり、体力健康維



持に努めている。こうした先輩たちの残した活動を継続し、また新たな活動を模索し、佐古コミュニティの活性化に努めて行きたい。

# 地域の方とともに

## 秋の徒歩遠足

昭和コミュニティ協議会  
昭和小学校校長 七條和恵



昭和コミュニティ協議会と小学校が連携して行われる行事の一つに、秋の徒歩遠足があります。

五年前に始まったこの遠足

は、全校児童が十人ほどの縦割り班（十六班）を構成し、地域の方の付き添いで、小学校区（約四キロメートル）をオリエンテーリングするものです。

遠足の前には、参加する大人と子どもたちが顔合わせの会をもち、自己紹介をし、コースや時間配分等について話し合います。その様子が大変ほほ笑ま



地域の方に見守られ歩く子どもたち

く、初めての出会いに緊張していた表情は、あっという間に緩み、しばらくすると、あちこちから笑い声が聞こえるようになります。家族のよう

にも見えるその様子に、改めて、子どもが地域の皆さまに育てられていることを強く感じさせられます。

また、遠足では、高学年の子が低学年の子の手を引いたり、励ましたりして、一生懸命世話をします。その姿を、一緒に歩きながら、地域の方が優しいまなざしで見守ってくださいます。「子どもが一年また一年と成長していくのを見ると、元気がもらえる。」と言って、毎年参加していただけの方が多いいのも心強くありがたいことです。こうした地域の温かいご協力のおかげで、教師も安心してポイントに立ち、安全な遠足を実施することができています。

さらに、付き添いの方から「この辺りは、昔はこうだった、おじさんたちはこんなこ

とをして遊んだものだよ。」などという話を聞くのも子どもたちにとっては興味深いことです。この遠足は、地域の変化や文化、そして歴史を教わる貴重な機会ともなっています。



地域の方から出されるクイズを楽しむ子どもたち

す。

東日本震災の悲しみから一年、復興に向けての歩みの中で、家族や地域社会の「絆」が見直される今、地域コミュニティと学校との連携をより確かなものにするには、大変重要な課題です。人づくりは町づくりの根底をなすものであると思います。その拠点である「地域の学校」として、皆さまのご支援に感謝しながら、さらに努力を重ねてまいります。

# 津波避難支援マップの作成



応神町コミュニティ協議会 会長 玉置勇次

昨年の東日本大震災に伴う大津波による被害は、東北地方を中心に甚大なものがありました。震災発生後、七月には町内会連合会で義援金を集め、わずかではありましたが日赤を通じて送りました。また九月には、町内在住で東北の救援ボランティア活動をされた方々の体験講演会を開催し、被害に対する認識を深めました。

しかし、四国で住む私たちも、震災は他人事ではありません。地域のコミュニティ活動として何か行動をしたいと考えていたところ、市役所から津波避難支援マップの作成



平成23年7月  
日赤へ義援金届ける

をしないかとの連絡があり、飛びつきました。各団体長と町内会連合会の役員さん二十四名を作成委員として、徳島市の危機管理課と徳島大学の田村先生のご指導で、作成を始めました。最初に困ったのは、どの程度の津波を想定すればよいかわかりませんでした。応神町は、吉野川の三角州の上であり、平坦かつ標高が低く、高いところでも四メートル程度しかありません。また高い建物も少なく、避難場所が少ないことから、町外の標



平成23年10月  
説明会開催、スタートとなる

高の高い所へ避難すべきなのか、町内の比較的高い場所へ避難すべきなのか迷っていました。昨年の十二月に徳島県が東海・東南海・南海の三連動地震を想定した津波高が発表され、小松海水浴場で最大四・七メートル、応神町内の

浸水深は〇・五から一メートル程度でした。

この結果を受け避難場所は、町内の鉄筋コンクリートの三階以上の建物にすることを決



平成23年11月  
作成委員会開催、地図上で応神を見る

ました。今後はマップが完成することで終わりにせず、震災や津波の学習を深め、その結果を各家庭や各個人に周知できるように活動を進めて行きたいと考えています。

めました。その後、避難場所及び避難経路は複数考えることなど、徳島大学のご指導のとおり進め、二月現在でほぼ完成するところまでこぎつけました。



平成24年1月  
避難場所・避難経路を探す



# 地震に備えて

不動コミュニティ協議会



平成二十三年三月十一日午後二時四十六分、マグニチュード九・〇の巨大地震が日本を襲いました。大津波が街、生活、たくさんの命を奪い去り、人々の胸に消すことのできない傷跡を残しました。徳島県でも南海・東南海地震がいつ起こってもおかしくない状況の下、備えを十分にしておかなければなりません。

不動町でも、不動学園（中学校・小学校・幼稚園・保育所）を中心として、駐在所や地域の人々とともに、地震及び大津波に対する避難訓練を行いました。

最初に地震発生を想定し、運動場に子どもたちを避難さ



せました。その後、大津波警報が発令されたとして、小学生・幼稚園・保育所の子どもたちを中学校の校舎三階まで避難させました。所要時間や避難経路、避難場所としてのスペースに問題がないかなどを検討しました。

また、自主防災組織では、訓練を通じて地域の防災意識を高め災害時に備えるとともに、地域での助け合いの技術の習得を目的として年一回訓練を行っています。今回は約百人が参加し、起震車体験や水消火器を使って消火訓練を行いました。また、災害用移動炊飯器を使って、豚汁とおにぎりを作りました。この訓



一宮下町づくり推進協議会

副会長 桑内 隆

パーン、パーンとパットライスをつくる機械の大きな音が秋空に響くと、恒例になっている一宮町のコミセン祭です。

二日間の日程ですが、いろんな催しを準備します。出品作品としては、絵、書、花卉、手芸などの展示。また、子どもにはたこ焼き、パットライス、綿菓子を無料で提供し、

## コミセン祭の絆



練は、限られた時間、限られた道具で炊き出しを行う難しさを感じる機会となり、さらに地域の防災意識を高める一日となりました。

不動町の今後の課題としては、各種団体や不動学園が連携し、一人でも多くの人が安全な場所にスムーズに避難できるよう、避難訓練を行いながら、仲間づくりに努めていきたいと思えます。



喜ばれています。特産品であるシイタケのつかみ取りやバザーには、女性が集まりにぎやかにあります。夜には芸能祭を開きますが、歌や踊りでそれぞれの腕前を發揮し、観客と一体となって盛り上がります。

このようにコミセン祭が、子どもが遊び、人々が談笑して、町内の交流の絆の場となつていきます。

今年もこのことを大切に、発展させたいものですが、多少マンネリ化もしているので、何か一工夫をという抱負を持っています。

# 五王神社境内にある 犬飼農村舞台

多家良中央コミュニティ協議会  
犬飼農村舞台保存会 芝原孝昌



(五王神社) 本殿

八多町内には平安時代の延喜式神明帳に記載されている由緒ある速雨神社の上手、八多川上流の鎮守の森の中に五王神社がある。五王神社の拝殿は一六五九年に建立され、春日大社造りで市内佐古の椎宮神社の小型である。

犬飼農村舞台は神社の境内の一段下った広場に位置し、現在の建物は明治六年に建築されて以来、人形浄瑠璃、田舎芝居など秋祭りの呼び物として娯楽の少なかった当時、心のよりどころであった。しかし、経済の高度成長期、テレビなどの普及により昭和三十〜四十年代に見放され中断するも、芝居好きの八名の氏子の熱意により復活、昭和四十八年犬飼農村舞台保存会を

設立する。その後県下を代表する農村舞台として平成の大修理を完工させ、平成十年サントリー地域文化賞受賞、同年十二月農村舞台が国指定重要有形民俗文化財となった。

十一月三日文化の日、神社の秋祭りには定期公演として、勝浦座による阿波人形浄瑠璃芝居と地元保存会による舞台の襖カラクリ(市指定無形民俗文化財)が奉納される。阿波人形浄瑠璃公演には県内外から多くの観客が集まり、フィナーレを飾る襖カラクリ(段返し千畳敷)は百三十二枚の襖絵を操作し、景色や動

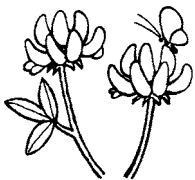


祭礼風景



物、花、文様に変化、展開し、御簾を巻き上げると奥千畳の御殿が見えてクライマックスとなる。

このような伝統文化財を次世代に継承すべく三十〜四十年代の保存会員を後継者として育成中です。



# 歴史と伝統にたつ南井上

南井上コミュニティ協議会 近藤和雄

各コミュニティには、それぞれの歴史や伝統があり、その基盤に支えられ、住みよい町づくりに努められていると思います。同様に、南井上地域もその流れが、今も脈々と生きつづけているように思えてなりません。



例えば、昭和七年に松茂、大野両村とともに全村学校の指定を受け、さらに昭和十三年にも全国強化団体より、強化村としての指定を受けております。その主旨は、村民全体の智徳の修養、道徳と経済の並進、隣保扶助、忠孝の精神など、当時私も幼少生で、村報とか映画会、今も残像として記憶に残っております。

また、昭和十六年には、南井上小学校が代用附属国民学校の指定を受け、女子師範、男子師範の教育実習の先生方が毎年来校、楽しく学習してきました。さらに地域の人々との奉仕作業、防火訓練、先輩たちとの地方での共同学習

野原での遊びなど、思いはつきません。

当時の村長さん、村議員さん、校長先生には道徳実践や相互扶助の精神、戦勝への願いやなど、いろいろご指導賜りありがとうございました。

このような歴史が私たちの今の自負心や、活動源にもなっているように思えてなりません。また「物心両面」という言葉がありますが、「南井上をよくする会」現、社会福祉協議会が早期に設立され、各戸より協力をいただき、

コミセン諸活動へと役立たせてもらってきました。その一例として、戦前より続く三世代触れ合いの体育大会、福祉

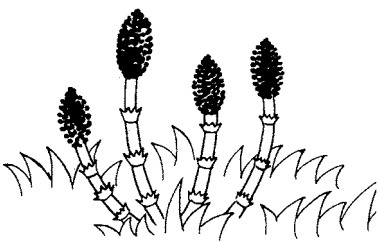


関係の活動、地方別教育懇談会、現在のコミセンまつり、各種のグラウンドゴルフ大会、町内マラソン大会など、老若男女全体が生き生き楽しく取り組んでおります。

また、当地区は近年急速な発展、商店、住民の増加と変貌しつつあります。秋祭りについても従来の氏子中心の考えから、地域文化を守ろうとした保存会、独自の子ども会が中心となり、盛り上げようとしております。また、住宅

の増加に伴う町内の再編成、町民意識の向上、農業の近代化へと、今やコミセン活動も多面化しております。しかし、その根底には、あの美風な郷土の歴史や伝統が生き続けていることかと思えます。

(参考 南井上郷土誌)



## 編集後記

関ヶ原の戦いに敗れた上田宗箇は、阿波藩に引き取られて徳島城表御殿庭園を作庭したと言われます。その庭園の鶴島に臥竜の松、亀島に天に昇る松、蓬萊の島の日の出の場所に永遠の鳥鳳凰を表した蘇鉄を植えています。

宗箇は、徳島が鳳凰や竜のように熱く燃え永遠に発展することを祈念したのでしょう。コミセンは、それぞれの地域の要として、それぞれの歴史と特性を生かし、発展することを願って設けられました。

佐古・一宮・昭和・南井上地区の活動の紹介は、躍動発展する人づくり町づくりの様子を如実に物語っています。佐古の愛日連の活躍、一宮や昭和の子どもと大人の活動、南井上の長い歴史に培われた多様な活動が徳島市コミセンの意気を表しています。

今や最大の課題である南海・東南海地震対策を応神と不動地区が意欲的な事業紹介をしてくれました。

多家長中央コミセンは、有名な犬飼農村舞台に取り組む地域活動を説明されました。徳島の誇りをみんなで応援していこう。

(佐藤義忠 記)